



はしば さとる  
橋場 覚

県民活動の舞台・いわて県民情報交流センター「アイーナ」が盛岡駅西口地区に誕生した。

平成4年3月、県企業局が国鉄清算事業団から旧盛岡工場跡地を取得してから14年。県民の後押しを得ながらの大規模事業は、盛岡駅西口都市開発整備事業の促進にあわせ県都の都市機能を飛躍的に発展させる可能性を秘めながらのスタートとなる。5月にはグランドオープンセレモニーが行われ、施設が本格オープンする。

県立図書館や視聴覚障害者情報センター、県民活動交流センターの公の施設や運転免許センター、パスポートセンターの行政機関、県立大学アイーナキャンパス等の施設が入居している。

### 事業推進に多彩な試み・アイーナ

アイーナは、未来をイメージした全面ガラス張りの斬新なデザインが話題となっているが、機能面でもたくさん工夫が施され、県民が主役の舞台にふさわしい建築物となっている。

特長は「環境配慮型の建物」。ガラス面を主体にした外観は、自然エネルギーを最大限に生かす工夫がされている。自然光の利用や、太陽光発電、広大なアトリウムを生かした自然換気と床冷暖房など、省エネルギーに配慮している。多目的トイレからシースルーエレベーターまでに及ぶユニバーサルデザインへの取り組みも顕著で、設計の段階から関係団体との意見交換を重ね、誰もが使いやすい施設づくりを目指し、竣工直前まで意見を出し合い改善を図った。

事業展開も刺激的だ。公募型プロポーザルによる設計者の選定と設計VEの実施。情報システム構築に総合評価一般競争入札方式を導入し、本県初の情報システム構築及び保守運用業務等の包括契約方法を採用した。施設の管理運営については、入居する県の行政機関や公の施設を整理して指定管理者制度を導入。各入居センターは、NPOや財団法人、民間企業が運営にあたる多彩な形態を実現した。事業担当は複合施設整備課で、県土整備部の施設整備担当の面々が連なるチーム編成。31ヶ月に及ぶ都市型の大規模工事は細心の施工監理のもとで進められた。

### 公共事業のプロが集う現場

県土整備部と関係部局間との横断組織での連携業務が広がっている。快適な住環境の実現に向けた下水道や浄化槽の整備を進める下水処理環境整備の促進。地域づくりを支援するため、関連する県道、農道、林道の整備を行う地域振興支援道路ネットワーク整備事業など、農道や林道の整備を一体化して構築する業務を県土整備部が担当することになった。地方振興局土木部現場では、県土整備や農林関係の公共事業のプロフェッショナルたちが一体になって業務にあたる体制となっている。

連携業務はハード事業に止まらず、経営環境が一層厳しさを増している県内建設業に対する支援プランの展開に向けての連携や、住民やNPO、企業等の多様な主体との連携や協働が仕掛けられている。

### 県民の舞台となる社会資本整備

来春のNHK連続テレビ小説が、岩手県を舞台にした「どんど晴れ」に決まったという。岩手が朝ドラに登場するのはこれが初めてで、岩手が育んだ四季折々の風景を舞台にしたドラマが全国に放映される。

県民の舞台となる社会資本整備を進めている県土整備部。厳しい財政状況を勘案しての事業の「選択・集中」が求められている。「行政の意思決定で最も重要なことは、○透明性を確保すること。○説明責任を尽くすこと。○行ったことに厳しいチェックを働かせること。」知事の言葉である。

新年度がスタートし、県内各地で多くの整備事業が展開されていく。これらの舞台づくりは行政の大きな役割だが、行政間や県民、NPO、企業等との多様な連携・協働の方向が見える。舞台にはシナリオづくりが欠かせない。シナリオは主役の県民と職員が創っていかなければならないと考えている。まずは県土整備部のチームワークで舞台づくりに励もうではないか。そして舞台がはねたら「ドントハレ」さ。